

みまや小だより

教育目標
やさしい子
かしこい子
たくましい子

いわき市立御厩小学校長 鈴木 英直

第2学期の体験・経験

- 5年生－9月4・5日、いわき海浜自然の家にて宿泊活動
1年生－9月10日、常磐消防署・アクアマリンふくしまへの見学学習
4年生－9月10日、コミュタン福島への環境の見学学習
5年生－9月10日、日産自動車いわき工場への見学学習
2年生－9月12日、いわき総合図書館、いわき駅から湯本駅まで常磐線に乗って、ほるるへの
見学学習
6年生－9月12日、東京方面（国会議事堂・TOKYO-DOME-CITY）への修学旅行
様々な「体験・経験」「学び」をすることができました。この「体験・経験」「学び」を今後の生活や授業に生かして欲しいと思います。「体験・経験は生かし方次第で自分の武器になる」ですね。

暑さ対策と感染症予防と健康管理

9月も半ばになりましたが、朝晩の涼しさを感じながらも昼間の暑さが続いています。市内でも新型コロナウイルス感染症の罹患者が増加しております。本校でも発熱・頭痛・腹痛などでの欠席者や体調不良での早退者が増えてきています。

そこで、ご家庭でも注意や対策をお願いします。

- 1 早寝・早起き・朝ご飯等の基本的な生活をさせる。
 - 2 栄養のバランスが取れた食事をさせる。
 - 3 水分をこまめに摂取させ、衣服の調節をさせる。
 - 4 手洗い・うがい・手指消毒を徹底させる。
 - 5 人が多く集まる場所へ行く場合は、マスク等の着用をさせる。
 - 6 学校での水分補給のため、水筒を常に持参させる。 など
- よろしく願いいたします。

登校しぶり

子どもが「学校に行きたくない」としぶっている場合には、どのような理由があるのでしょうか。理由は大きく分けて、4つが考えられます。

『母子分離不安』

母子分離不安とは、母親と離れることに不安を感じることです。学校に行くことで母親と引き離されてしまうため、登校したくないという気持ちになります。個人差はありますが、決して愛情が足りないからではないので、親は過度に心配せず、子どもの不安な気持ちを受け止めてあげるのが良いと思います。

『いじめ』

いじめは小学校の低学年から起こることが多く、この時期は体格なども関係しているため、力が強い子どもが有利になる場合がありますが、「いじめは犯罪であり、決して許されることではない。」ことを学校も親も思っていることを伝えてあげてください。

『先生との関係性』

友達だけでなく、先生との関係がうまくいっていないことで、学校に行きたくないと感じる子どももいます。その際、遠慮なく学校に連絡をしてください。

『集団生活が苦手』

集団生活が苦手なケースでは、たくさんの子どもの中に入る学校生活に苦痛を感じます。発達障害を持つ子どもに多い傾向で、とくに聴覚や触覚が敏感な子はなおさらです。その時は、担任を含め、学校に相談してください。



そこで

家庭での対応ポイント

1 気持ちを受け止める

「どうして行けないの？」と責めずに、「行きたくないんだね」「つらい気持ちがあるんだね」と共感的に声をかける。子どもの気持ちを否定せず、安心して話せる雰囲気をつくること。

2 原因を探る手がかりを得る

学校での人間関係、勉強の負担、体調面など背景はさまざまなので、子どもが言葉にできない場合もあるので、表情や行動の変化から推測してあげること。

3 「休んでも大丈夫」という安心感を伝える

「休むこと＝悪いこと」ではなく、「元気になるための休み」と位置づけることが大切ですが、ダラダラと夜更かしやゲーム三昧にならないよう生活リズムは守るようにさせること。

4 小さな成功体験を積ませる

いきなり「フル登校」ではなく、「玄関まで行く」「学校の近くまで行ってみる」「保健室や校長室だけに行ってみる」などの段階的なステップを考えてあげること。

5 学校と連携する

担任やスクールカウンセラー、養護教諭などと情報を共有。教室以外で過ごす場所の確保や、短時間登校から始める工夫を相談すること。

6 親自身が安心している姿を見せる

親が不安そうだと、子どもは「自分はダメなんだ」と感じてしまう。「あなたは大丈夫だよ」と安心感を与えること。

7 専門機関への相談も視野に

状況が長引いたり、子どもが強い不安や体調不良を訴える場合は、教育センター・心理相談・医療機関（小児科・心療内科など）ポイントは「無理に学校に行かせる」よりも「安心できる環境を整えること」です。安心の積み重ねが、登校への一歩につながると思います。